

小学校社会科教育 理論研修会 終了報告

テーマ	社会的事象を公正に判断し、社会と主体的にかかわる力を育む学びの創造	
日時	平成29年 7月 7日(金)	
会場	石狩教育研修センター	
講師	鎌田 和宏 氏 (帝京大学 教授)	
参加者	26名	
研修会 の 様子		<p>昨年度に引き続き、お越しいただいた経緯もあり、私たちが設定している研究主題に沿った具体的な話をたくさんしていただいた。18歳の人々にも選挙権が与えられた今、近い将来有権者になる小学校の子どもたちが、投票行動に向かうことつまり社会に関心をもつ子どもたちに育てることが、社会科の大きな役割であるというお話もあった。</p>
		<p>学習指導要領改定に伴い、社会科の内容も大きく変化していくことが予想される。鎌田先生からは、小学校各学年の改訂のポイントを具体的にお話しいただいた。特に3年生から導入されることに変更となった地図帳についてのお話や、校区の学習つまり子どもたちにとって身近な地域学習が縮小してしまったことに対する危惧にも触れていた。</p>
		<p>研究主題の中にもある言葉だが、「社会的事象を公正に判断すること」が難しい時代であることにも触れていただいた。今の時代は「情報過多」の時代であり、昔よりもいろいろな情報にふれる機会が多い。その中で、自分の考えに近い情報を正しいとしてしまうことの危険性があるのではないかというお話だった。そんな時代だからこそ、社会的事象を公正に判断できる力は絶対に必要であり、この研究主題を設定している方向性は間違っていないのではないかというお話も頂いた。</p>